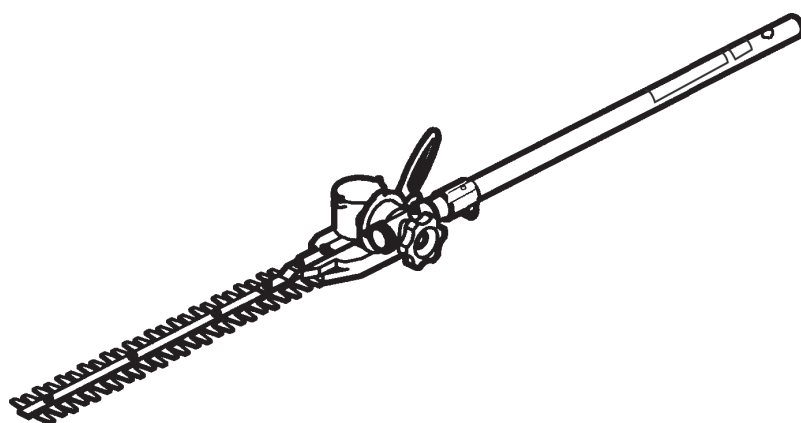


取扱説明書

マルチカッター ヘッジトリマアタッチメント

BMCA-HTS



目次

1. ▲安全に作業するために … 1	6. 作業の準備 …… 11
2. 各部のなまえと付属品 …… 5	7. 生垣刈作業 …… 14
3. ▲警告ラベルの取扱い …… 6	8. 点検・整備 …… 17
4. 主要諸元 …… 7	9. 長期保管 …… 19
5. 組立 …… 8	10. 故障と対策 …… 19

▲ご使用になる前に必ずお読みください。

まずはじめに ▲ 安全に作業するために をお読みください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
この取扱説明書は、安全で快適な作業を行っていただくために、製品の正しい取扱方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただいて充分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの本書をご活用ください。

また、お読みになった後必ず大切に保存し、わからないことがあったときには取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などによりお買い上げの製品と本書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。




本製品についてお気付きの点がございましたら、最寄りの販売店にお問い合わせください。

■使用目的

本製品は生垣刈を目的とした製品です。この目的範囲外の使用が原因での事故、および分解を行い、それに伴って生じた事故に関して一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■注意表示について

この取扱説明書では、とくに重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

-  **危険** …もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるもの。
-  **警告** …その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるもの。
-  **注意** …その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。
- 注意** …その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性のあるもの。

■マルチカッターを他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある▲(安全注意マーク)印の付いている警告ラベルを一枚ずつ説明してください。

マルチカッターと一緒にこの取扱説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を会得してから作業するように指導してください。とくに禁止事項については念を入れて説明してください。ご家族に運転させるときも同じように説明してください。

■国際単位について

●本取扱説明書には、国際単位を表示しています。下記の換算数値をよく読んでご理解の上ご使用ください。

換 算 表

量	新計量法対応表示	換 算	従来の表示	備考
回 転 速 度	[min ⁻¹] (毎分)	1[min ⁻¹] = 1[rpm]	[rpm]	※

※注意事項

単位時間における回転数については、「回転数」ではなく、「回転速度」と表示します。

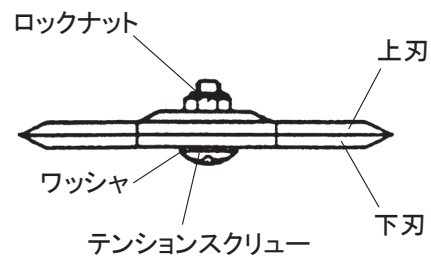
1 ▲ 安全に作業するために

ヘッジトリマアタッチメントは刈刃を動かして作業する機械です。取扱方法を誤ると重大な事故を招きます。ここに書かれた安全作業を必ず守ってください。

●安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記のとおりです。これ以外にも、本文の中で ▲ **危険**、▲ **警告**、▲ **注意**、**注意**、としてその都度取り上げています。

- 機体の改造は危険ですので行わないでください。故障や思わぬ事故の原因になります。
- 混合燃料は金属製の燃料缶に入れて保管、運搬してください。また1ヶ月以上経過した燃料は使用せず、新しい混合燃料を使用してください。
- 刈刃が石などの硬いものに衝突したときは、ただちにエンジンを停止して刈刃を点検し、損傷のある場合は交換してください。また繰り返し衝撃を受けると、刈刃の損傷だけでなく、ギヤケースを破損する危険があります。
- 作業時間とともに、テンションスクリュー、ロックナットは摩耗します。石や砂などの多い場所での作業では摩耗も早まります。テンションスクリュー、ロックナットが摩耗すると、刈刃の交換が困難になります。作業前には必ず刈刃取付用テンションスク

リュー、ロックナットの摩耗を点検し、テンションスクリュー、ロックナットがスリ減り始めたら、テンションスクリュー、ロックナットを交換してください。



- エンジン回転が低いまま作業すると、クラッチの異常加熱により故障の原因となります。スロットルレバーを全開にして作業を行ってください。

▲ 危険

- 混合燃料を給油するときや機械を点検整備するとき、近くで煙草を吸ったり、タキ火をしたりすると、火災などの事故を起こすことがあります。機械の近くでは、火は絶対に使わないでください。
- 混合燃料の補給は、必ずエンジンを停止して、冷えてから行ってください。またこぼしたときは、必ず拭き取ってください。
- 給油後、燃料タンクキャップから燃料もれのないことを確認してください。
- 作業中に混合燃料がもれている場合は、火災になるおそれがあり大変危険です。ただちにエンジンを停止して最寄りの販売店にて修理をしてください。
- 混合燃料は金属製の燃料缶に入れて保管、運搬してください。



警告

■ 右図のように、飛散物から目を保護するゴーグルタイプの保護メガネ、顔を保護するフェイスシールド、騒音から耳を保護する耳栓やイヤーマフ、落下物から頭を保護するヘルメット、振動から手を保護する保護手袋、飛散物や刈刃から足を保護する滑り止め付の安全靴とすね当てを必ず着用してください。

■ 体内にてペースメーカーを使用している方は、マルチカッターを使用しないでください。ペースメーカーが誤作動をおこす可能性があります。

■ 衣服は長袖・長ズボンで、袖・裾じまりの良い身体にぴったり合ったものを着用してください。だぶついた服や、フリル、飾りヒモなどの付いた服、ネクタイ、ネックレスなどは、機械やヤブにからまったり、回転部へ巻き込んだりする危険があるので着用禁止です。

■ 長い髪の毛は、機械の回転部に巻き込まれないように、肩より上でまとめてください。

■ 体調の悪いとき、また酒酔のときには、絶対作業しないでください。

■ 本機を子どもに使わせしないでください。

■ 複数の人で作業する場合、接近すると危険ですから、笛、サイレンなどを用意して離れた位置から合図出来るようにしてください。作業中に家人などが、作業者を呼ぶときも同じように笛などで離れた位置から合図することを決めておいてください。

作業中、人が後方から接近することは非常に危険です。作業者がマルチカッターを持って後ろを振り向くと、後ろにいる人を死傷させます。

■ 夜間および風雨のときは、見通しが悪く事故の原因になりますので作業は行わないでください。

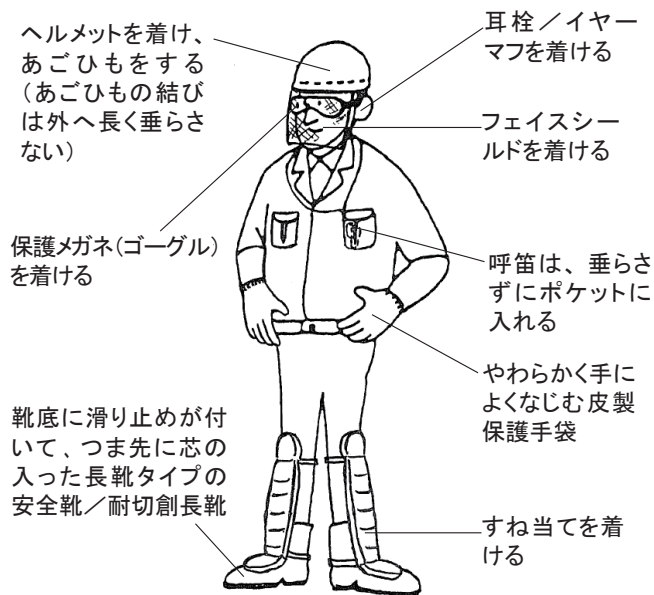
■ 作業する場所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを作業前に充分確かめてください。

■ 肩掛バンドに亀裂や劣化がないか始業時点検してください。万一の場合に機械から容易に離脱出来るよう、サビツキ、バネの状態、材質の変化、破損の有無を点検してください。

■ **6** 作業の準備 (2) - <2> 緊急離脱装置の使い方を事前に練習してから作業してください。

■ 安全に使用するために、刈刃の状態 (刈刃の割れ、過熱による変色、カケなど損傷の有無) を必ず点検してください。それら損傷のある刈刃類は危険ですので絶対に使用しないで交換してください。また、刈刃の状態が悪いと疲労の原因になります。

正しい服装の一例



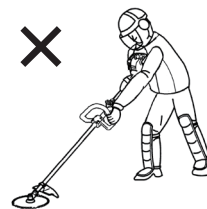
警告

- 刈刃やその他の部品は当社純正部品を使用してください。間に合せのもの、粗悪なものは事故の原因になります。

粗悪な刈刃を使用すると障害物に当たったときなどに、刃先が折損し作業者に向かって飛んできて、死傷や失明などの重大事故が起きる危険があります。

- 排気ガスは人体に有毒ですから、屋内では始動しないでください。
- エンジンの回転を上げるときは、ゆっくりとトリガースロットルレバーを操作してください。急激に回転を上げると、機械の損傷や事故を起こすことがあります。
- 雨上がりなど足元が滑りやすい場所、および急傾斜地では使用しないでください。また、ハシゴに乗っての作業や、木に登っての作業など不安定な場所では使用しないでください。
- 次の場合、必ずエンジンを停止してください。
 1. 刈刃部からみ付いた、草やひもなどを取り除くとき。
 2. 刈刃角度を調整するとき。
 3. 混合燃料補給のとき。
 4. 各部の点検、整備、清掃のとき。

- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
- 身体の前に本機をもってくる作業姿勢は、絶対にやめてください。エンジンが身体に接近するために、火傷や排気ガス吸引のおそれがあります。



- 運転中の排気ガスは高温です。刈払機の後方1m以内には、枯草、おがくず、衣類・布類、木造の建屋・壁などの可燃物、また人や動物に近づけないでください。いかなるものも、排気ガスをさえぎらないようにしてください。火傷、焼損の他に変色などのおそれがあります。また、マフラの排気口がふさがれると、排気ガスの高温でエンジン自体が損傷するおそれがあります。



注意

- 本機の使用用途は生垣刈用です。それ以外の用途に使用しないでください。
- 身体を冷やさなような服装で作業してください。
- 安全作業にとって効果的ですので、作業開始前に準備体操を行ってください。
- 工具、燃料缶、薬品（虫さされ他）などを携行してください。
- 1ヶ月以上経過した燃料は使用せず、新しい混合燃料を使用してください。
- 機械に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じたときは、ただちに作業を中止して機械を修理してください。
- エンジンは運転中および停止直後は高温です。マフラ、シリンダにさわらないでください。また、エンジンが冷えるまで可燃物（混合燃料・枯草など）の近くに置かないでください。
- 作業終了後は刈刃に刃カバーを付けてください。刃カバーがないと機械が転倒したときや刈刃に手や足を引っ掛けたとき、事故を起こすことがあります。

振動障害の防止

振動障害を防止するために、本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

■ 1日の作業時間について

- ・疲労が重なると注意力が低下し、事故の原因になります。作業計画にはゆとりをもたせてください。
- ・1日の作業時間は、本機、または取扱説明書に記されている『周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値』により、厚生労働省通達で次のように決められています。

周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値が

- ① 10m/s²より小さい場合：1回の連続作業は30分以内、1日の作業時間は2時間以内。
- ② 10m/s²より大きい場合：1回の連続作業は30分以内、1日の作業時間は次式より算出した時間以内。

$$T = 200 \div (a \times a) \quad T: 1日の最大作業時間(時間)$$

$$a: 周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値(m/s^2)$$

本製品の周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値

名 称	BMC263S + BMCA-HTS
周波数補正振動加速度 実効値の3軸合成値(m/s ²)※1	3.4
質 量(kg)※2	6.4

※1：『周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値』は、ISO 22867：2004により測定しています。

※2：質量は燃料、肩掛バンド、刃カバーを除いた質量です。

■ 使用前の点検・整備について

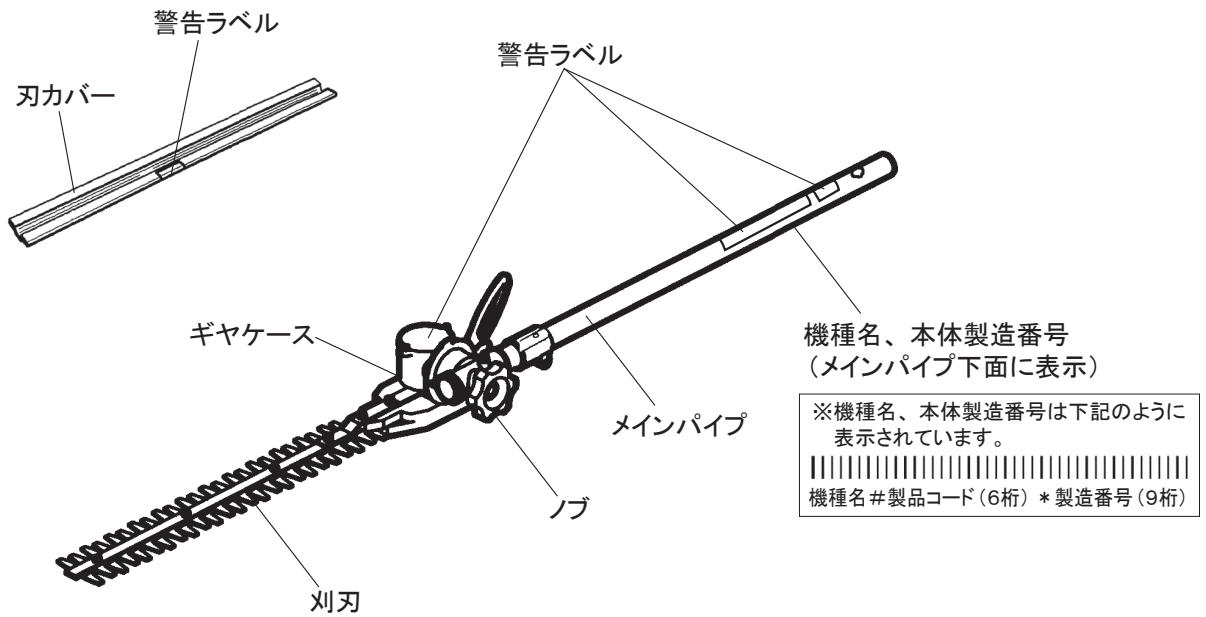
製造時の振動レベルを劣化させないため、作業する前に必ず機体各部の点検・整備を行い、異常がないことを確かめてください。とくに、次のような異常がある場合は速やかに使用を中止し、最寄りの販売店に点検・整備をご依頼ください。

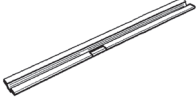


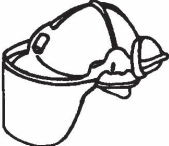

- ・振動が大きくなったなど、異常な振動を感じたとき
- ・防振ゴムの劣化、破損、固定部のゆるみ
- ・ループハンドルの変形、破損
- ・ループハンドルと後グリップの劣化、破損
- ・ギヤケースのヒビ、損傷

また下記に関しても振動レベルの劣化に影響するため、使用前に点検・整備（**6** 作業の準備（6）始業点検 参照）を行ってください。

- ・ループハンドル取付用ネジのゆるみ
- ・刈刃の割れ、曲がり、ヒビ、摩耗、損傷
- ・刈刃の上下刃の隙間
- ・刈刃の乾きの状態
- ・刈刃のテンションスクリュー、ロックナットの摩耗
- ・ギヤケースのクランプノブのゆるみ

2 各部のなまえと付属品



付 属 品	 取扱説明書 / 1冊 (239245)	 刃カバー / 1個 (407352)	 キャップ / 2個 (215350) <p>() 内は部品番号です</p>
オ プ シ ヨ ン (別 売)	 グリス (211337)	 フォレストヘルメット (587526)	 ファンクショナルブーツライト () 内は部品番号です <p>サイズ cm 24.0(409571) 25.0(409572) 25.5(409573) 26.0(409574) 26.5(409575) 27.5(409576)</p>

3 警告ラベルの取扱い



注意

- ・警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- ・警告ラベルが損傷したときは必ず新しいラベルと交換し、同じ場所に貼ってください。
- ・警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

※本製品には、下の図に示す位置に次の警告ラベルが貼ってあります。

下記にその内容を記載してありますので、よく読んでその意味を充分理解した上で、表示内容を守って作業してください。また機種名、製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、裏表紙にメモしてください。

① 部品番号 (229463)

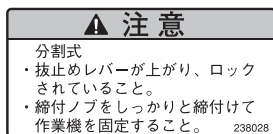


- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・取扱いには充分注意すること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・刈刃には触れないこと。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ご使用前に必ず取扱説明書を読み、正しく作業すること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・混合燃料は引火性が高いので補給の際は必ずエンジンを停止すること。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ること。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン始動は、刈刃を接地させないで行うこと。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感電の危険があるので、電線の近くでは作業を行わないこと。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・火傷防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラなどの高温部にさわらないこと。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業中は 15 m 以内に人、動物が近付かないようにすること。複数台で作業するときもこの距離は守ること。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・作業中は保護メガネ、耳栓、ヘルメットなど防護具を必ず着用すること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・排気ガスは人体に有害です。室内の作業は換気すること。 |

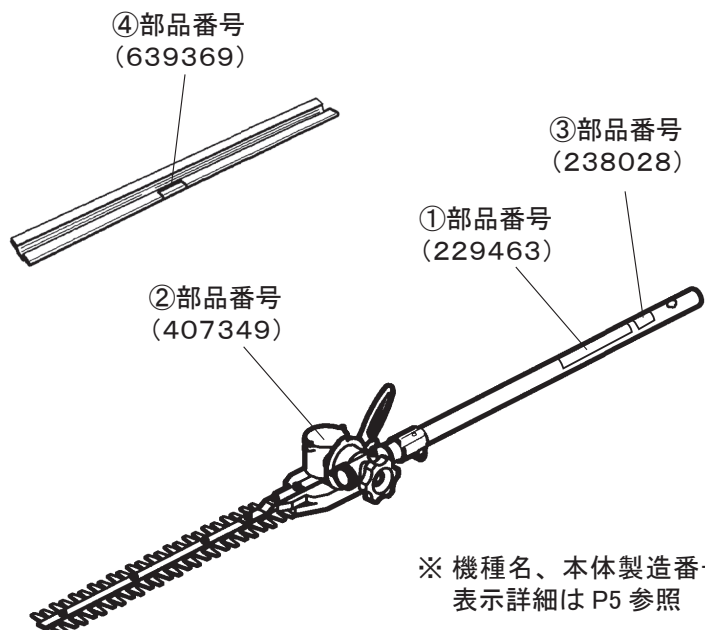
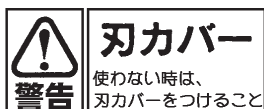
② 部品番号 (407349)



③ 部品番号 (238028)



④ 部品番号 (639369)



※ 機種名、本体製造番号の表示詳細は P5 参照

4 主要諸元

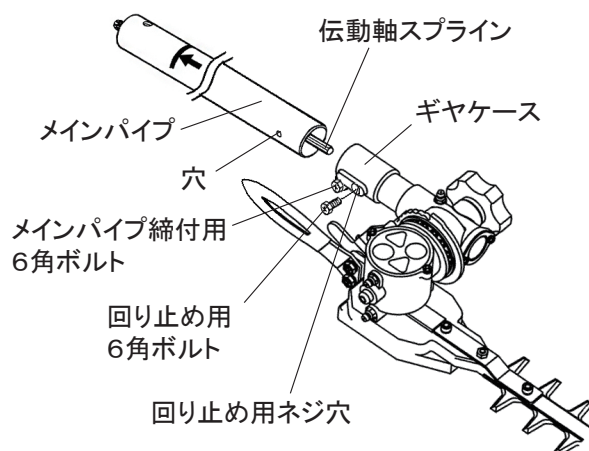
名 称	BMC263S + BMCA-HTS	
使 用 用 途	生垣刈	
ハ ン ド ル	ループハンドル	
寸 法	全 長(mm)	2270
	全 幅(mm)	235
	全 高(mm)	235
質 量 (kg)	6.4*	
減 速 比	1 : 4	
刈 刃 形 状	両刃	
有 効 刈 幅 (mm)	405	
エ ン ジ ン	名 称	EE261
	形 式	空冷 2 サイクル正立ピストンバルブ式
	総 排 気 量 (cm ³)	26
	使 用 燃 料	潤滑油混合燃料
	使 用 潤 滑 油	市販 2 サイクル専用オイル
	混 合 比	50 (ガソリン) : 1 (市販 2 サイクル専用オイル / FD, FC 級) 25 (ガソリン) : 1 (市販 2 サイクル専用オイル / FB 級)
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	0.55
	気 化 器	ロータリーバルブ式ダイヤフラム
	点 火 方 式	無接点マグネトー点火
	点 火 プ ラ グ	CHAMPION CJ6Y
	始 動 方 式	リコイル式 (Rスタート)
	停 止 方 式	一次線短絡式 (押しボタン式)

・改良のため予告なく仕様を変更することがあります。
 ※ 質量は燃料、肩掛バンド、刃カバーを除いた質量です。

5 組立

(1) ギヤケースの組付

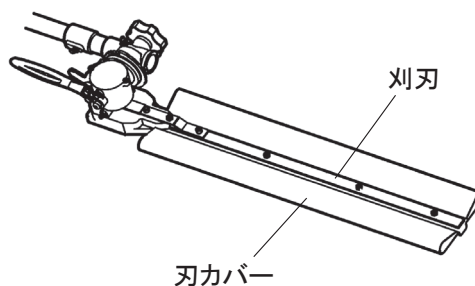
- ① 回り止め用六角ボルトを外し、メインパイプをギヤケースの奥まで差し込んでください。このときメインパイプの矢印マークがパワーユニット側に、反対側がギヤケース側になります。伝動軸とギヤケースのスプラインを合せるように挿入してください。このとき、伝動軸を回しながら挿入すると、スプラインが合さりやすくなります。
- ② メインパイプの穴と回り止め用ネジ穴を合せて、回り止め用六角ボルトを締め付けて固定してください。
- ③ メインパイプ締付用六角ボルトを締め付けて、ギヤケースとメインパイプを確実に固定してください。
- ④ 正しく組み付けられたら、伝動軸を回し、刈刃が動くことを確認してください。このとき、刈刃には絶対に触れないでください。



(2) 刃カバーの取付・取外し方

⚠ 注意

- ・刃先でケガをしない・させないように作業中以外は、刈刃に刃カバーを取り付けてください。
- ・刈刃の刃先に注意して作業してください。
- ・刃カバーを取り付ける際は、必ず保護手袋を着けて行ってください。
- ・作業を始める前に、刃カバーを外してから作業をしてください。



(3) パワーユニットとアタッチメントの組付・分割

注意 アタッチメントの組付・分割時は必ずエンジンを停止してください。思いがけず刈刃が動いてケガをするおそれがあります。

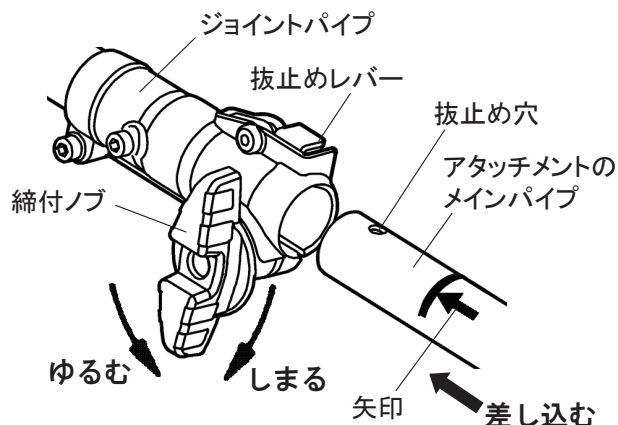
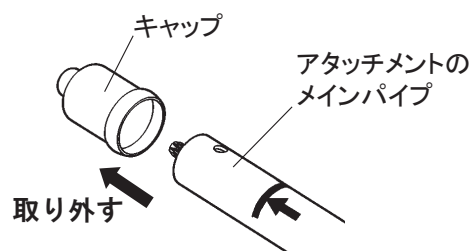
〈1〉組付

- ① アタッチメントのメインパイプ端のキャップを取り外してください。作業終了後、再度分割した場合は必要になるので、なくさないように保管してください。
- ② ジョイントパイプにアタッチメントのメインパイプを差し込めるよう、締付ノブをゆるめてください。
- ③ 図のようにメインパイプの抜止め穴を上に向けて、ジョイントパイプに差し込んでください。メインパイプの矢印がジョイントパイプ端面と合うまで差し込んでください。その際抜止めレバーは自動で一旦下がり、カチッという音とともに元の位置に戻ります。
- ④ 抜止めレバーが下がったままの場合は、レバーの突起がメインパイプの抜止め穴から外れた状態です。メインパイプを左右に回転させることでレバーの突起を穴にはめることができます。

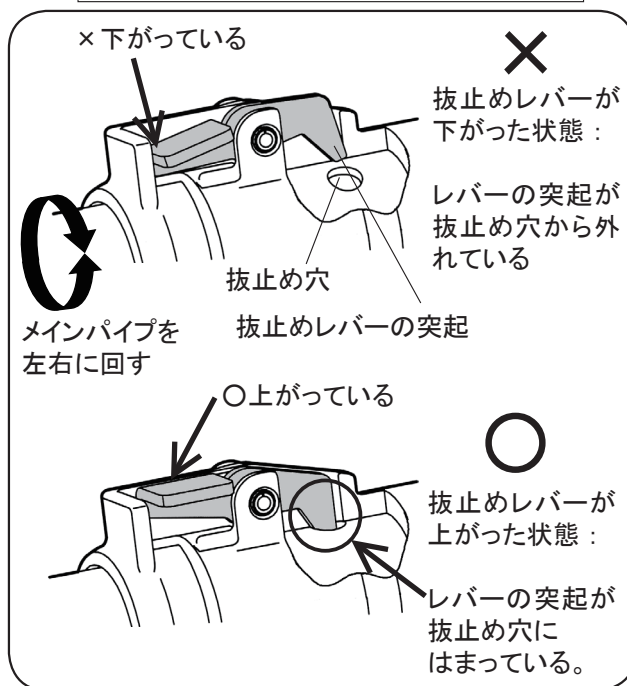
注意 抜止めレバーが下がったまま使用しないでください。アタッチメントが外れてケガをするおそれがあります。

- ⑤ 締付ノブを締め付け、アタッチメントをしっかりと固定してください。

注意 パワーユニットとアタッチメントの組付後、必ず締付ノブをしっかりと締め付けてください。締め付けないとアタッチメントが外れてケガをするおそれがあります。

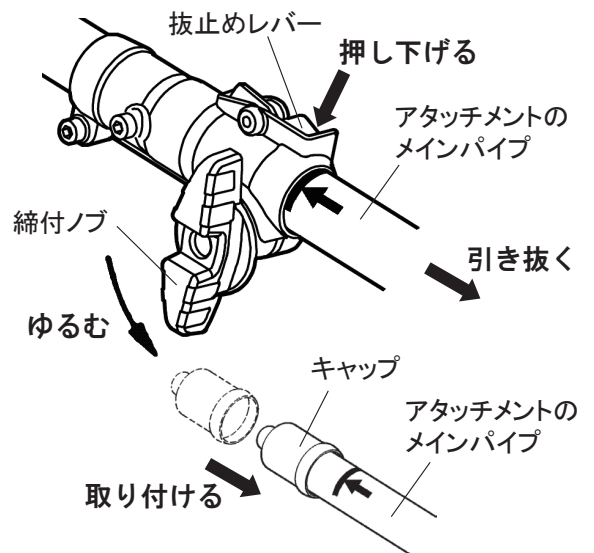


部分断面図 (実際には中は見えません)



〈2〉分割

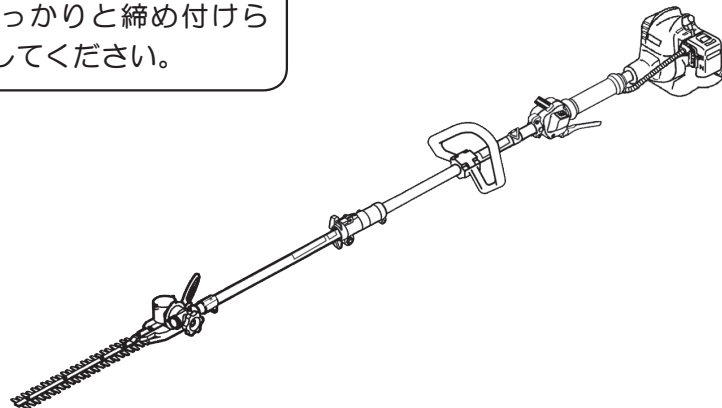
- ① 締付ノブをゆるめてください。
- ② 図のように抜止めレバーを押し下げながらアタッチメントのメインパイプを引き抜いてください。
- ③ 締付ノブ、ナットの脱落防止のため、締付ノブを軽く締め付けてください。ナットはノブの反対側にあります。(8 点検・整備 (6) ジョイントパイプ 参照)
- ④ キャップをアタッチメントのメインパイプ端に取り付けてください。



〈4〉組立完了

これでマルチカッターの組立は完了です。図のように正しく組み立てられているか、もう一度確認してください。

マルチカッターの組立後、締付ノブ・ナットなど、しっかりと締め付けられているか確認してください。



6 作業の準備

(1) 保護具の装着



警告

服装は長袖・長ズボンなど、身体の露出する衣服は避けてシャツの裾などは必ずズボンの中に入れて、作業中に引っ掛けることのないようにしてください。また、図の「正しい服装の一例」のように必ず保護具を着けてください。(P2正しい服装の一例を参照)

(2) 肩掛バンドの使い方

〈1〉肩掛バンドの装着・使い方

- ① 肩掛バンドは消耗品です。切れ、ほつれ、損傷などが無いことを確認し、図.1のように装着してください。
- ② 図.2のように、肩掛バンドの引掛金具を本機のハンガーに引っ掛けてください。
- ③ マルチカッターを身体の右側に吊り下げ、ループハンドルが握りやすいようにバンドの長さを調整してください。

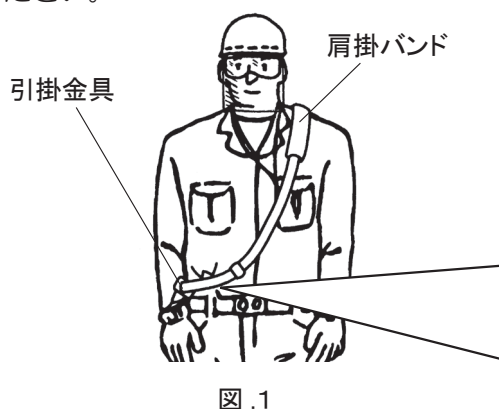


図.1

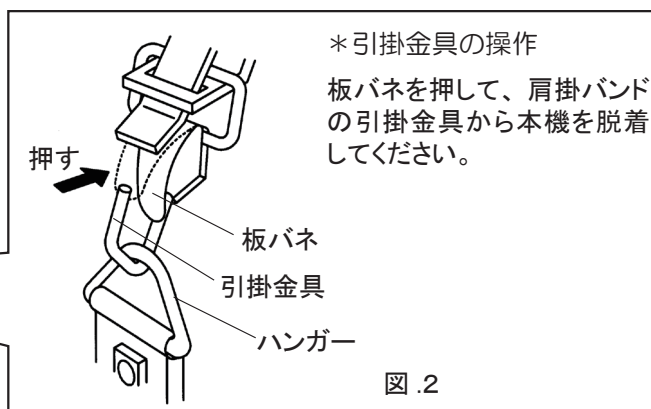


図.2

〈2〉緊急離脱装置の使い方

肩掛バンドの緊急離脱装置は図.3のように赤色帯を上へ引くと、本機が肩掛バンドから離れます。作業の前にエンジンを停止した状態で安全な場所で操作の練習をしてください。

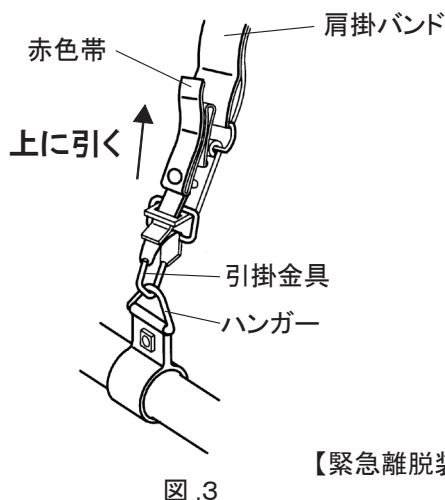


図.3

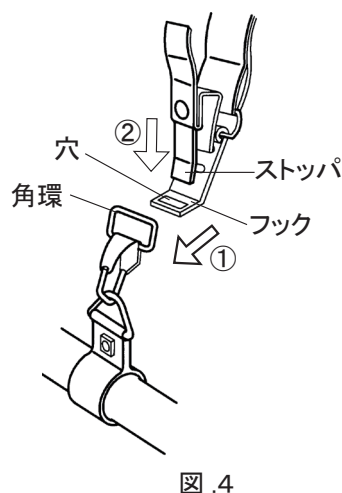


図.4

*緊急離脱装置の組み立て方

- ① 図.4のように角環にフックを通してください。
- ② ストッパをフックの穴に挿入してください。



注意

緊急離脱装置は、緊急時以外使用しないこと。

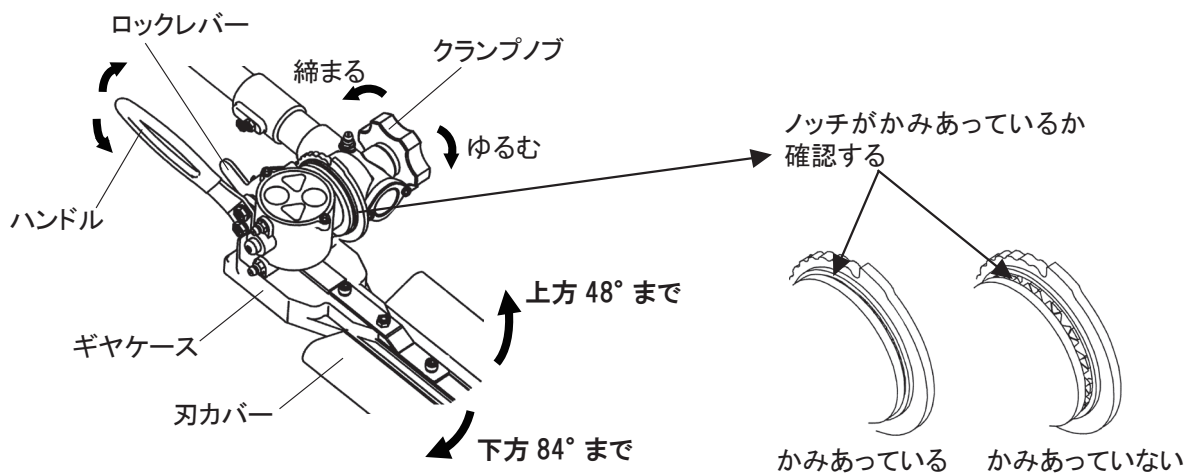
(3) 刈刃角度の調整



注意

- ・ 刈刃角度の調整は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- ・ 刈刃角度の調整は、必ずハンドルで行ってください。
- ・ 刈刃を扱う際は、必ず保護手袋を着けてください。

- ① クランプノブをいっぱいにゆるめてください。クランプノブをいっぱいにゆるめた状態でないと、刈刃角度の調整はできません。
- ② ハンドルを上下させ、作業に適した角度に調整してください。この際、ロックレバーを操作しないでください。
- ③ クランプノブを締め付けて確実に固定します。
- ④ クランプノブの締め付け後、ノッチが確実にかみ合っているか確認してください。かみ合っていない場合は再度クランプノブをゆるめ、ノッチがかみ合っていることを確認し、クランプノブを締め付けてください。



* 格納

ヘッジトリマアタッチメントは、下記手順で折りたたんで格納することが可能です。

1. クランプノブをいっぱいにゆるめてください。
2. ロックレバーを下方に押しながらハンドルを握り、刈刃を上方に 180° 回転させてください。

ロックレバーは折りたたむとき以外には操作しないでください。

3. 折りたためたらクランプノブを締め付けて固定してください。
4. クランプノブの締め付け後、ノッチが確実にかみ合っているか確認してください。かみ合っていない場合は再度クランプノブをゆるめ、ノッチがかみ合っていることを確認し、クランプノブを締め付けてください。

(4) 運搬の仕方

マルチカッターを作業場所まで運ぶときは、次のようにしてください。

- ・刈刃には刃カバーを付けてください。
- ・本機の燃料タンクは空にしてください。
- ・混合燃料は金属製の缶に入れてください。
- ・軽トラックなど、運搬用車両の荷台へ本機を固定して作業場所まで運搬してください。
(自転車やバイクなど、2輪車での運搬は不安定で危険ですから決してしないでください。)

(5) 作業現場の清掃

生垣刈作業をしようとしている現場に落ちている小石、空缶、空ビン、鉄クズ、針金、ひも、粗大ゴミなど、作業の障害になるものを取り除いてください。これらが飛散して周囲の人、建物、自動車などに被害がおよばないことを確認してから作業してください。

(6) 始業点検

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。始業点検は毎回行うことにより、故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検ですので必ず実施してください。

点 検 項 目		処 置
刈刃	割れ、曲がり、ヒビ、摩耗、損傷など	交換 ■8 点検・整備 (4) 刈刃
	上下刃の隙間	調整 ■8 点検・整備 (2) 刈刃の調整
	乾きの状態	注油 ■8 点検・整備 (3) 刈刃の注油
	テンションスクリュー、ロックナットの摩耗	最寄りの販売店に修理を依頼する
ギヤケース	クランプノブのゆるみ	増締め ■6 作業の準備 (3) 刈刃角度の調整
	刈刃の動きが悪い	グリス補給、 ■8 点検・整備 (1) ギヤケース テンションスクリュー、ロックナットの調整 ■8 点検・整備 (2) 刈刃の調整

摩耗、破損した刈刃の使用は、異常振動の発生やメインパイプ、ハンドルへの過度な負担の原因になります。ご使用前に点検をしていただき、必要な場合は表にある処置をしてください。

7 生垣刈作業

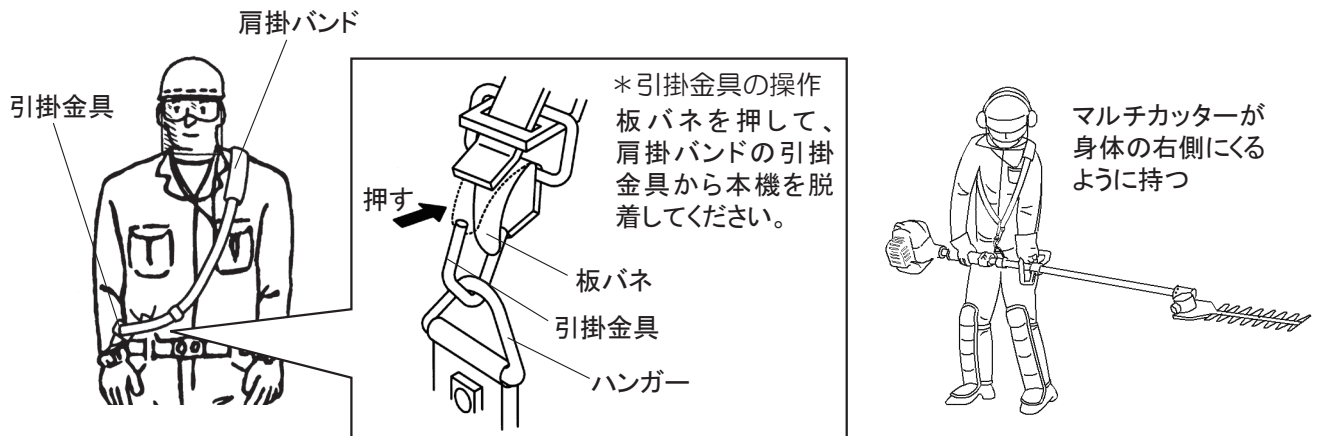
危険 電線の近くで作業しないでください。誤って刈刃が電線に接触すると刈刃から電気が伝わり、感電して死傷などの重大事故を起こす危険があります。

警告 始動は必ず、給油した場所から3m以上離れたところで行ってください。

注意 作業を始める前に、刃カバーを外してから作業をしてください。

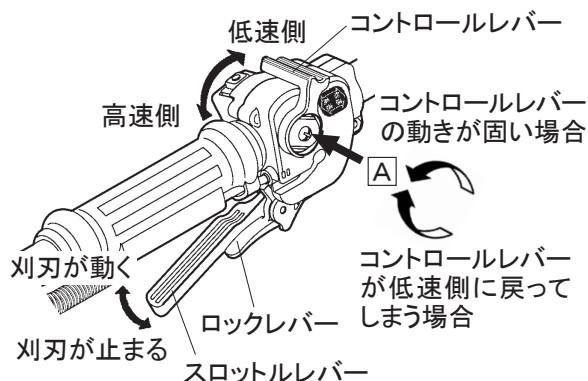
(1) マルチカッターの保持

- ① エンジンを始動して、刈刃が停止していることを確認してから本機のハンガーに肩掛バンドの引掛金具を引っ掛けてください。このときマルチカッターが身体の右側にくるように持ってください。



(2) エンジンの回転

- ① ループハンドルと後グリップを両手で保持し、ロックレバーを握りながらスロットルレバーを握ってください。
- ② コントロールレバーを高速側にゆっくりと移動させると、エンジン回転が徐々に上がり、刈刃が動き始めます。生垣刈の場合、コントロールレバーをいっぱいに引いてエンジン回転速度を全開にしてください。(コントロールレバーが低速側いっぱいの位置のままでは、スロットルレバーを操作しても刈刃は動きません。) 回転を上げる場合は急激に上げずに、徐々に回転を上げてください。



メモ：ロックレバーを握らないとスロットルレバーを握り込めない構造になっています。スロットルレバーを握る際は必ずロックレバーも一緒に握ってください。

- ・コントロールレバーを高速側いっぱい調整した後スロットルレバーを握っても、コントロールレバーが少し低速側に戻る場合があります。これは内部の調整機構によるもので、エンジン回転自体は最高回転速度に保持されます。
- ・また運転中にコントロールレバーが低速側へ戻ってしまう場合、前ページ下図のネジAを矢印の方向へ締め付けてください。締め付け過ぎるとコントロールレバーの動きが固く（シブく）なりますので、少しずつ締め付けてください。

- ③ コントロールレバーを低速側いっぱいに戻す、またはスロットルレバーを手から離すと、エンジン回転はアイドリング状態になります。刈刃はしばらく惰性で動いた後、停止します。刈刃の動きが止まらない場合はアイドリング調整をしてください。

[BMC263S の取扱説明書 8 点検・整備 (1) キャブレタの項目参照]

- ④ コントロールレバーをいっぱい引いてエンジン回転速度を全開にして作業してください。

注意 エンジン回転が低いまま作業すると、クラッチの異常加熱により故障の原因となります。

(3) 生垣刈作業



警告

- ・安全のため、必ず保護手袋を着けて行ってください。
- ・枝などに食い込んで刈刃が止まった場合は、必ずエンジンを停止して、食い込んだ枝を取り除いてください。そのとき、刈刃の状態を点検し、刈刃に亀裂や割れ、損傷がある場合は、絶対に使用しないでください。
- ・作業中は、ループハンドルと後グリップをしっかりと握って作業してください。
- ・はしごの上や不安定な場所での作業は、やめてください。
- ・作業を中断したり、移動する場合は、必ず刃カバーを取り付けてください。



警告

- ・生垣刈作業を中断し身体からマルチカッターを離すときは、必ずエンジンを停止してください。エンジンを止めないと、マルチカッターが振動で動きだし危険です。
- ・エンジン回転が上がった場合、刈刃が動き出し傷害事故を起こす可能性があります。
- ・地面に置いたマルチカッターの燃料タンク底が摩耗し、燃料もれを起こし火災になる危険があります。
- ・非常の場合は、緊急離脱装置の赤色帯を上を引き上げてください。マルチカッターが肩掛バンドから外れて落下しますので、充分注意してください。
- ・万一、自分のすぐ近くに人がいることに気が付いたときは、決して動かないでください。マルチカッターを持ったまま振り向いたりすると、動く刈刃で人を死傷させます。まずエンジンを停止して、刈刃の動きが止まるのを確認してから対応してください。



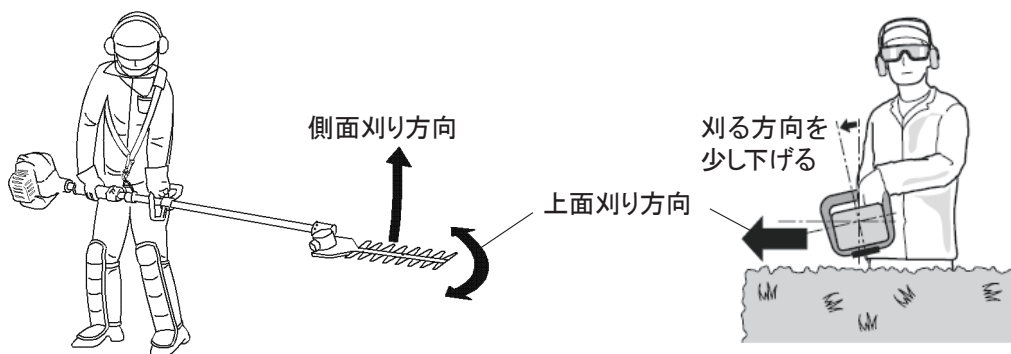
注意

作業中、スロットルワイヤを木の枝などに引っ掛けないように注意してください。スロットルワイヤが引っ張られると、予期しないエンジン回転の上昇が起き危険です。

注意

刈込枝の太さは4.5mm以下にしてください。太い枝を刈ると故障の原因になります。

- ① 上面を刈る際は、ループハンドルと後グリップを両手でしっかりと持ち、機体を水平に保ち、刈刃を刈り込む方向に対しやや傾斜させ、体を軸に円弧を描くように進行してください。
- ② 側面を刈る際は機体を垂直に保ち、刈刃を体からできるだけ離し、下から上へ刈り込んでください。



- ③ 障害物に注意し、刈刃が当たらないようにしてください。

(4) 作業後

- ① コントロールレバーを低速側いっぱいに戻してください。
- ② 刈刃が止まるのを確認しエンジンを停止後、保護手袋を着けて、刈刃の掃除、損傷有無の点検をしてください。異常のある刈刃はマルチカッターから外して廃棄処分してください。
- ③ 本機を掃除し、混合燃料を燃料タンクから燃料缶に排出してください。次にプライマポンプを何回か押してキャブレタ内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。その後もう一度、燃料タンクの混合燃料を燃料缶に排出してください。

8 点検・整備

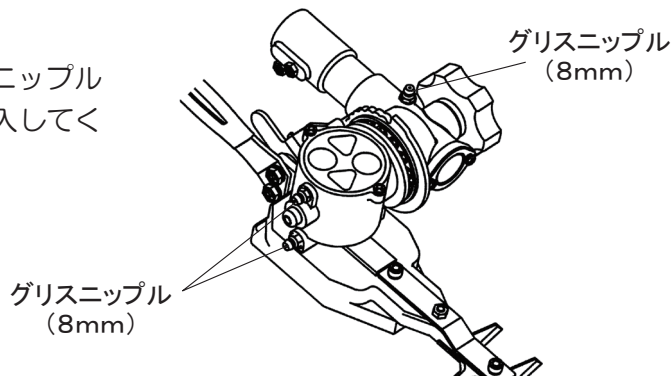


注意

- ・(1)～(5)の点検・整備は必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・(4)刈刃の点検は、保護手袋を着けて行ってください。
- ・(6)ジョイントパイプの整備は、エンジンを停止してから行ってください。

(1) ギヤケース

10時間運転毎にグリスガンを使用し、グリスニップル(3箇所)から耐熱用のリチウム系グリスを注入してください。



(2) 刈刃の調整

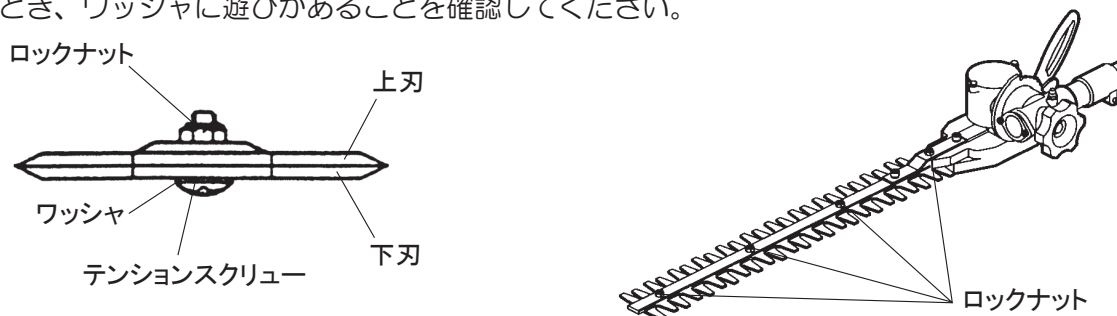
刈刃には、少し隙間があるように調整されていますが、刈刃が摩耗し、隙間が大きくなった場合には刈刃の隙間調整を行ってください。

刈刃の隙間調整は、専門の技術を必要とします。ご自身で調整ができない場合は、最寄りの販売店に調整を依頼してください。

注意

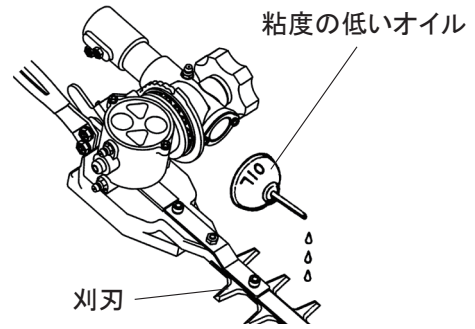
- ・隙間調整を行わないと、切れ味が悪くなったり、刈った草が刈刃にはさまって故障の原因になります。
- ・テンションスクリューを締め込みすぎると刈刃が動かないことがあります。その場合は、テンションスクリューの戻し量を増やしてください。
- ・刈刃を固定しているロックナットは特殊なナットですので、他のナットを使用しないでください。損傷している場合は、新品と交換してください。
- ・テンションスクリュー、ワッシャが摩耗したり損傷している場合は、新品と交換してください。

- ① ロックナット (4箇所) をゆるめてください。
- ② テンションスクリューをいったん締め付けた後、 $1/4 \sim 1/2$ 回転ゆるめてください。
- ③ テンションスクリューを動かさずに、ロックナット (4箇所) を締め付けて固定してください。このとき、ワッシャに遊びがあることを確認してください。



(3) 刈刃の注油

作業を中断したときなど、合間を見て刈刃の合せ面にオイルを注油してください。オイルは、粘度の低いオイル（市販の2サイクルオイル、4サイクルオイル、マシン油、マシン油など）を使用してください。



(4) 刈刃

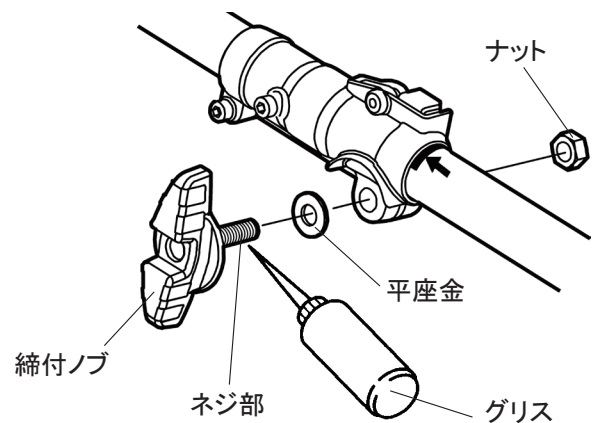
- ① 作業開始前と作業終了後には、必ず刈刃を点検してください。
- ② 摩耗した刈刃は新品（当社純正部品）と交換してください。
- ③ 割れた刈刃は新品（当社純正部品）と交換してください。

(5) ボルト・ネジ

各部のボルト、ネジのゆるみを点検し、ゆるんでいる場合は増締めしてください。また、摩耗していたら新品と交換してください。

(6) ジョイントパイプ

締付ノブの動きが固く（シブく）になったら図のように分解し、ネジ部にグリスをごく少量塗ってください。その際、平座金、ナットなどをなくさないように注意してください。



9 長期保管

安全にご使用いただくために年に1回、最寄りの販売店にて定期点検を行ってください。

「点検・整備」の(1)～(6)項の整備を行ってから保管してください。また損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。

! **注意** 刈刃には刃カバーを付けて保管してください。

10 故障と対策

(1) 回転は正常だが、切れ味が悪いとき

故障原因	対策
刈刃が摩耗している。	刈刃を新しいものに取りかえる。 [最寄りの販売店に交換を依頼する]
刈刃の隙間が大きすぎる。	刈刃の隙間調整を行う。 [8 点検・整備 (2) 刈刃の調整の項目参照]

(2) 運転中、回転が次第に下がるとき

故障原因	対策
刈刃の隙間が小さすぎる。	刈刃の隙間調整を行う。 [8 点検・整備 (2) 刈刃の調整の項目参照]

サービスと保証について

■保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は、大切に保管してください。製品を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、ただちに適切な整備をしてください。お買い上げの販売店にご連絡ください。

○連絡していただく内容

- 機種名
- 製造番号
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったか を詳しくお話しください。

○本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、お買い上げの販売店に点検整備をご依頼ください。このときの整備は有料となります。

■補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後8年です。但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

製品に関するお問合せなどは、まず、ご購入の販売店にご相談ください。
または、下記の全国共通の無料通話でもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120 - 898 - 114

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土、日、祝日を除く)

製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、
あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 製品型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名



本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 TEL (03)3252-2281 (営・代表) 〒 101-0047

この取扱説明書の部品番号は 239245

P/N. 239245-04 1801 IN